

1. 香川県の気象特性

香川県は、年間を通して降水量が少ないですが、過去、何回か災害が起こっています。

2. 繰り返される豪雨災害

豪雨や集中豪雨は、甚大な災害を引き起こし、毎年多くの人の命を奪っています。

近年の雨の降り方は以前に比べて、大雨で激しく降る傾向にあります。これには地球温暖化が関係しており、気温が高くなればなるほど、空気中に多くの水蒸気を含むことができるからだそうです。

香川県でも 豪雨災害がいつ起きてもおかしくなく、実際、小豆島では、1976年に、1日の降水量が日本全体で観測史上5番目を記録していると教えてくださいました。



3. 警戒レベルと気象庁の発表する防災気象情報（大雨時）

●避難に対する基本姿勢

平成30年度、国は、目指す社会を、次のように定めたそうです。

◎住民は、「自らの命は自らが守る」

- ・平時より災害リスクや避難行動等について把握する。
- ・地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行い地域の防災力を高める。
- ・災害時には自らの判断で適切に避難行動をとる。

◎行政は、「適切な避難行動」をとれるよう住民を全力で支援する。

- ・あらゆる世代を対象に、継続的な防災教育や避難訓練などを実施し、「自らの命は自らが守る」意識の徹底や災害リスクと取る行動等を周知する。
- ・災害時には、避難行動が容易にとれるよう、防災情報をわかりやすく提供する。



「警戒レベル」を導入し、住民がとるべき行動を5段階に分け、情報と行動の対応を明確化した。

警戒 レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
<警戒レベル4までに必ず避難！>			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示（注）
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 （気象庁）
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 （気象庁）

※警戒レベル4までに必ず避難！が重要

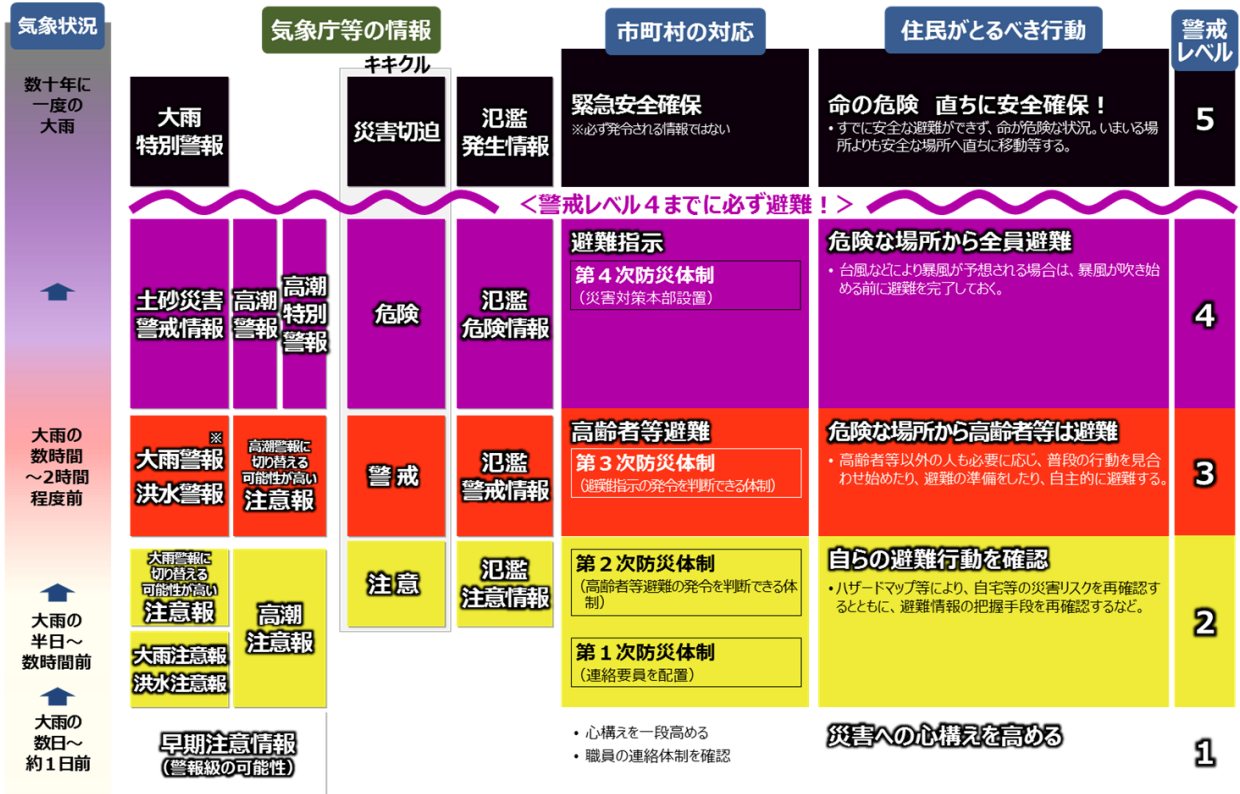
（警戒レベル5（黒色）では、逃げられるかどうかかわからないため）

※避難とは難を逃れることで、「危ないとき」に「危ない場所」から避難して命を守ることが重要
避難がキーワード

危ない場所★ハザードマップ（できれば、まち歩きをして、自分の目や耳で確認）

危ないとき★避難情報等（避難所に行くことだけが避難ではない）

●「警戒レベル」と「防災気象情報」



※ 夜間～翌日早朝に大雨警戒(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

防災気象情報の役割は、市町村等の「行動指南型」の避難情報の発令判断を支援する役割と、「状況情報」としての、住民が避難行動をとる前の段階の「マインド作り」「危機意識醸成」という役割があるそうです。

気象庁等と市町村は、常に連携しているので、市町村の避難情報の発令を待たなくても、気象庁や河川・砂防部局等の防災気象情報を入手することで、準備することができると教えてくださいました。

災害につながるような現象が予想される際には、発生するおそれのある現象のスケールを踏まえ、予想可能性に応じて段階的に発表しているとのこと。

また、警戒報・注意報(危険度を色分けした時系列)は、「注意報級の現象が予想される期間」や「警戒報級の現象が予想される期間」などを、危険度に応じて色分けした時系列(3時間毎)の表形式により視覚的に分かりやすい形で提供しているそうです。

●大雨による災害

雨の降り方や降る場所によって、もたらされる災害が異なり、土砂災害、浸水害、洪水害をもたらすことから、自分の地域で起こり得る災害を、事前に把握しておくことが大切とのこと。

そして、「雨量の予報から災害危険度の予報へ」について次のように説明してくださいました。

大雨の降っている場所は気象レーダーで把握可能だが、災害の発生する場所・時間とは、必ずしも一致しない。



気象庁では、大雨による災害発生の危険度の高まりを確認できる「危険度分布」を提供している。この「危険度分布」をより多くの皆さまに知っていただき、活用していただくために愛称を募集。

その結果、愛称を「キキクル」に決定。この愛称は「危機が来る」がもとになっており、危険が迫っていることが分かりやすくなっている。



【キキクル（スマホでの見方）】

読み込むと雨雲の動き、浸水キキクル、土砂キキクル、洪水キキクルが出てくるので、見たいキキクルの右下にある「詳しく見る」をクリック。

※顕著な大雨に関する情報について

「線状降水帯」による大雨の危機感をお伝えします

➡この情報が発表されたら、市町村の避難情報やキキクル（危険度分布）等を確認し、適切な避難行動をとってください。

「線状降水帯」は積乱雲がほぼ同じ場所で数時間停滞することにより大雨となるもので、災害の危険度が急激に高まります。

今年、高知県で発生した「線状降水帯」についての情報は、通常より早く出すことができたそうです。少しでも早く出せるよう、日々研究されているとのことでした。

4. 気象災害から身を守るために

ハード防災とソフト防災の組み合わせによる防災・減災について教えてくださいました。

ダムを造るなどのハード防災は、費用がかかる上、想定を超える事象についての対応には限界がある。ソフト防災は、気象情報を理解し、今後どうなっていくかを判断し、行動しなくてはならないというハードルがあるそうです。

そこで、平常時は、ハザードマップの確認や防災まち歩き等で危険箇所を知るとともに、災害の知識、防災情報、取るべき行動などについて確認し、家族で話し合っておく。災害時には、“情報”をフルに活用して最適な安全確保行動をし、命を守るために最善を尽くすことの重要性を話されました。

「まだ大丈夫」「自分は大丈夫」「これまでも大丈夫だった」など自分に都合よく考える傾向を「正常化の偏見」と言うそうです。自然を甘く見ることなく、最悪の事態を想定した行動をとるように、と話をされ、プロアクティブの原則（積極的対応）を教えてくださいました。

1. 疑わしいときは行動せよ

2. 最悪事態を想定して行動せよ

「正常化の偏見」に陥って、希望的観測をしてはいけない

3. 空ぶりは許されるが見逃しはゆるさない

空振り覚悟で積極的に対応すべき

結果的に、空振りに終わっても、「ああ、たいしたことなくてよかった！」ということが大切で、「いつかは・・・」という心構えで災害に備えることが重要というお話が印象的でした。

この講座を受けて、自分の身は自分で守ることの大切さを痛感し、気象庁等からの情報を理解し活用することの重要性を再認識しました。受講生さんからも、「災害についての意識が更に高くなった。」「早速気象庁のホームページを見ます。」「キキクルを登録します。」などの声が寄せられました。

